

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、昨年12月にカリタス若林サポートセンターが行った仮設でのクリスマス会の様子と、いわき教会「チーム平・堂根」が被災者の方々と日帰り旅行を開催した様子、そして同じくチーム平・堂根が、被災者の方々が仮設住宅から災害復興住宅へと移行していく中で、それに伴いお茶っこの開催場所を移し、新たな第一歩を踏み出した様子をご報告いただきましたので、ご紹介いたします。

～カリタス若林 SC～

仮設でのクリスマス会

カトリック一本杉教会

小野 敬子

12月17日（水）、仙台市若林区荒井の東通仮設住宅集会所で、一足早いクリスマス会を開きました。200世帯近くを数えた入居者も、現在では、新しい住まいに移られた方も多く、世帯数も6～7割ほどになっています。いつもは、一本杉教会と畳屋町、西仙台の三教会のメンバーを3つの班に分け、「カフェ・カリタス」と称して、毎週水曜日の午後コーヒーとお菓子を持って訪問していますが、クリスマス会は3班合同で開いており、今年で4回目となりました。

今年は、エメ神父様とロワゼール神父様が特別ゲストとして参加してくださいました。サンタクロース役はロワゼール神父様、サンタの衣装に白いひげ、白い眉を付けたところ、本物のサンタさん(?)も顔負けのまさにはまり役で、各テーブルのお年寄り一人ひとりに声をかけながら回って、最後には肝心の袋の中のプレゼントを渡すことも忘れるほど盛り上げてくださいました。

神父様の活躍は、これに留まらずサンタの衣装を着けたまま今度は、アコーディオンを肩にクリスマスソングなどを次から次へと皆をリードしながら熱唱。終わった時には汗びっしょりで息も荒く、神父様にとってはお疲れのクリスマス会だったと思いますが、仮設の方はもちろん私たちにとっても本当に楽しいクリスマス会になりました。

合間には6年前から教会周辺の方々も多数参加して練習している「一本杉コーラス」も日頃の成果を披露して、こちらもメンバーの皆さんにとって良い発表の場になったのではと思います。



今回は平日午後の開催とあって、新しい方は少なく、いつもお会いする方がほとんどでしたが、中にお一人新しい住まいに移られた方がおいでになり、楽しそうにされていたのが印象的でした。

被災者の方々と行く世界遺産・富岡製糸場&富岡教会

いわき教会 チーム平・堂根 佐々木 三代子

2014年10月、ご支援くださっている修道会のシスターから、懸命に働いているボランティアの慰労にと、群馬県富岡製糸場他へのお誘いをいただきました。

内郷での堂根サロンの際、どこかのテーブルでそのことが話されると、「私も行きたい！」と多くの声上がり、急ぎよ、出掛けることもままならない被災者の方々と共に行く1日旅行にしようということになりました。参加者の希望をとり、一緒に世界遺産・富岡製糸場と富岡教会へ行く企画をたてました。

そのころ、テレビでは世界遺産・富岡製糸場の特番も組まれ、観光客の多さが盛んに報道されていたので、ボランティアも含め一気に機運も盛り上がり、教区からの支援も受けて、実現の運びとなりました。

1日旅行当日、被災者の方々31名、ボランティア10名は、駐車場の広いいわき教会を発着として、朝7時に出発。サロンにお集まりの方々とボランティアは、すっかり気おけない仲間になっているので、片道4時間の行程も、和気あいあいの車中となり、予定よりかなり早い到着となりました。

早速、高々と挙げられた手作りの黄色いチーム平・堂根の三角旗の後を、カトリック太田教会信徒のご夫妻のご案内で、富岡製糸場に向かいました。

富岡製糸場は、生産を増やし、産業を盛んにすることを目的に、明治政府が建てた生糸の製糸工場です。明治政府が造った官営工場の中で、ほぼ完全な形で残されているのは、この富岡製糸場だけです。明治5年(1872年)10月4日の操業以来、民営化の後、戦中・戦後も製糸工場として活躍していましたが、1987年(昭和62年)操業を停止しました。主要な建物は、国指定重要文化財に指定され、大切に保存されていたものが、2014年世界遺産に指定されたものです。

平日にもかかわらず、右も左も観光客で賑わい、工場の敷地内はさらに多くの人々とすれ違う有様で、好天に恵まれて気温も上がったため、お年寄りには足元の砂利道がこたえたようでした。

何はともあれ一同、空腹を抱えて富岡教会に伺いますと、門前にはお告げのフランシスコ会のシスターたちといわき市の中央台仮設を一緒に訪問したカトリック高崎教会の坂上神父様も待っていてくださり、本当にビックリしました。一緒に仮設訪問した頃は、未だ神学生でしたが、すっかりローマンカラーがお似合いの神父様となっていました。

富岡教会ホールに招き入れられると、そこにはあの懐かしい峠の釜めし、シスターたちお手製



の味噌汁や漬け物、ゼリーなど、テーブルいっぱいのおもてなしに、被災者の方々からも「わあー！」という歓声があがりました。

皆さん十分に美味しいものをいただいた後は、2階の聖堂の祭壇前で記念写真を撮りましたが、その背面の壁につけられた長いケースに何人もが集まり、見入っていました。ケース内には生糸が入っており、歴史を感じさせる富岡製糸場で最初に作られた生糸とのことでした。

午後は、バスの出発時刻まで、美味しいコーヒーを味わいに行かれた方々、お土産を探しに行かれた方々など、思い思いに街の散策に出掛けました。参加者から絹のスカーフは買えなかったとの呟きが聞こえてきたところ、ボランティアからも私も買えなかったと双方同調した瞬間もありました。

いよいよバスが教会前を発つ時、神父様とシスターたちが、手を振って見送ってくださいました。その後バスは、教会から車で10分ほどの距離にあるこんにやくパークへ立ち寄りしましたが、そこで私たちをアッと驚かせることが起こったのです。なんと先ほど見送って下さったはずの神父様とシスターたちが、そこにいらっしゃったのです。神父様とシスターたちは、密かに私たちのバスの後をついてきていたのです。こんにやくパークでは、お土産を準備して下さり、嬉しいやら申し訳のない気持ちになりましたが、ここで本当のお別れの時がきました。

その後、バスは一路いわきに向い、賑やかだった一日も日暮れての車中となり、一緒にふる里を歌った頃には、それぞれがご家族の顔を思い浮かべていたことでしょう。

今回のこの機会をいただいたことは、被災者の方々ばかりでなく、私たちボランティアも楽しい一日を共有することができ、本当にありがたいことでした。

内郷雇用促進住宅から豊間団地へサロンを移して

いわき教会 チーム平・堂根 佐々木 三代子

私たちチーム平・堂根は、東日本大震災以降、内郷雇用促進住宅でのサロン、イベント等を通して、いわき市内津内被災者の皆様と共に活動してまいりました。しかし、昨秋10月末に、久の浜地区を残して、四倉、豊間、薄磯地区の復興住宅が完成しました。それを機に、各々の地元への引っ越しが徐々に行われ、だいたいの引っ越しが済んだことから、自治会長さんにご相談の上、今年1月末をもってサロンを終了することを決めました。

1月23日、久の浜地区の方々、今後も内郷雇用促進住宅に残られる方々、そして既に各地に引っ越しをされた方々にも参加していただき、最終サロンが開かれました。名残惜しい中でしたが、各々のお心を集合写真に納めました。

年末からの堂根会議では、不便な地域に建つ復興住宅にサロンを移行し、内郷から戻られた方々も含め、新たな方々と関わり、寄り添い続けようとのメンバーの総意から、豊間と薄磯の復興住宅団地に伺うことに決めました。

そこで、ボランティアの士気も下がらぬうちに、また、継続性の点からも時を置かず豊間、薄磯の自治会長さんを訪ね、話し合いの場を持ちました。

ただ一つ危惧しておりましたのは、この地域は特に宗教的な事柄での難しさを含んでいると耳にしていたことでした。

しかしながら、今回の豊間自治会長さんとの話し合いでも大切なこととして、早い段階で自分たちの出身がカトリック教会のボランティアであること



を明らかにすることにありました。そして、宗教的な話は、一切皆様との間ではいたしませんというお約束を行動で表し、信頼関係を築いていくことが必要であると考えていました。それは、今回の話し合いの直前、自治会長さんは他のキリスト教の動きに不信感を抱いたようでした。

話し合いが始まりましたが、自治会長さんは私たちにも大変厳しい態度で一つひとつ念を押すかのように接しておられたのですが、話し合ううちに誤解も解け、笑顔でのやりとりになりました。最後には「平・堂根さんの内郷での評判は聞いています。あなた方を呼んでほしいとの要望もありました。よろしく願います。」とのご挨拶をいただきました。

早速、サロンを開くためのチラシなどの準備にとりかかり、いよいよ豊間団地での第一回サロンを2月13日に開催しました。

2月13日、10時頃に現地集会所に伺うと、既に7~8名のお年寄りと自治会役員さんたちが待機されており、今や遅しと「何を手伝いしましょうか？」と積極的にお手伝いしてくださいました。慌ただしくテーブルの準備を整え、サロンの開会となりました。

まず、ご挨拶にたたれた自治会長さんの口から「今日ここにおいて下さったのは、平の美術館前のカトリック教会堂根会の皆さんです。…出来るだけ長く続けていただきたく願います。」という言葉がありました。これには、本当に驚きました。それまでの怖れを喜びに変えてくださったのは、確かに神様でありましょう。

第1回のサロンには、43名の方が参加され、終始和やかに進みました。しかし、せっかくのバレンタインチョコや生菓子などをサロン内でみんなで一緒にいただくのではなく、お家でお嬢さんと食べたいという方ばかりで、内郷での最初の頃のサロンの状況を思い浮かべていました。

これからの寒さ対策にとご支援くださる教会からの手の込んだ編み物プレゼントは、皆様の関心を集め、男性も身につけてはご披露され、会場内は拍手が起こり、盛会のうちにお開きの時間となりました。

参加された皆様が、それぞれにありがとうと仰ってください、久しぶりの緊張からの疲労感も喜びの良き日への感謝へと変わっていきました。

新たなチーム平・堂根の出発は、今後、豊間の皆様と協力しながら、名前を呼び合ってご一緒につくっていくサロンであり、さらにはご要望の多いイベントになっていくことでしょう。

今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

